

## ■ 施工手順

## 1. 下地の水分状態の確認

- ① ポリエチレンシートを用いた簡易的な下地の水分の確認方法  
(1) 約1m四方のポリエチレンシート(厚さ0.15mm以上)をモルタル面に広げ、空気が逃げないように周囲を粘着テープで止め、一昼夜放置する。  
(2) 一昼夜放置後のモルタル面の変色状況及びポリエチレンシートの状況に応じて、以下の工法で施工を行う。

- ② 高周波水分計(HI-520-2)にて、D.MODEに設定し、数値を読みとる。

- ③ トーチランプやガスバーナーで下地をあぶり、色の変化や水滴の有無を確認する。

※下地の水分の確認は、乾燥の進み難い直射日光が当たらず、通風の少ない場所で行ってください。

## 2. 水分の確認結果と施工方法、床材の張り付け

## ◎ 確認結果

- ① モルタル、ポリエチレンシート共に変化が無い場合。
- ② 高周波水分計で数値が440未満の場合。
- ③ トーチランプ等で下地をあぶっても下地が黒っぽく変色しない。(変化がない)  
→床材に適合した一般用接着剤で施工。

- ① モルタルに黒っぽく変色が認められる場合。
- ② 高周波水分計で数値が440～620未満の場合。
- ③ トーチランプ等で下地をあぶった際に、下地が黒っぽく変色する。  
→床材に適合した耐水用接着剤で施工。

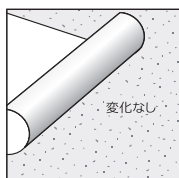
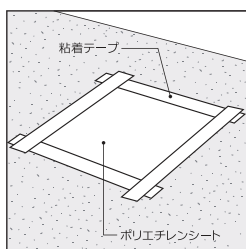
- ① モルタルが明らかに黒く変色し、シートには水滴が付着している。

- ② 高周波水分計で数値が620以上の場合。
- ③ トーチランプ等で下地をあぶった際に、下地が黒っぽく変色し、水滴が付着する。  
→施工を延期し、下地の乾燥を継続する。

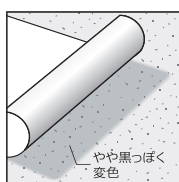
## ※備考

- (1) 床材及び接着剤は、極力前日までに搬入し、施工環境に慣らしておいてください。
- (2) ビニル床シートなどを施工する場合は、施工に先立ち、巻癖、伸縮を取り除くため、仮敷きを行ってください。タイル系の床材は、反りなどが生じないように、平滑な場所で保管してください。
- (3) 冬季低温時(5℃以下)の施工は、ジェットヒーターで採暖を取るなどして施工を行ってください。
- (4) 施工後、急激な温度変化が生じると、床材が伸縮し、目透きや突き上がり、反りが発生し易いのでご注意ください。
- (5) 床材張り付け後、床材に適した継ぎ目処理などを行ってください。

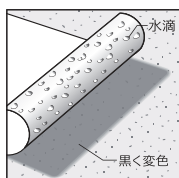
## ■ 使用商品 (施工㎡数)



高周波水分計で数値が440未満の場合



高周波水分計で数値が440～620未満の場合



高周波水分計で数値が620以上の場合



## ■ 注意事項

- ① デッキプレートに打設したコンクリート下地や軽量コンクリート仕上げ下地、また防湿層を設けた土間コンクリート床下地などは、乾燥に通常の2～3倍の時間が掛かり、下地表面の乾燥状態だけでは判断できませんので必ず下地の水分の確認を行ってください。また、防湿層を設けていない土間コンクリート下地は、梅雨時など下地から湿気が上昇することがありますのでご注意ください。
- ② 溶剤系製品を使用する際は、火気・換気に十分注意してください。
- ③ 下地に水分が多量に残っている場合や常時水分が上昇している場合などは、透湿性のある床材に変更するなどをご検討ください。
- ④ 床材の種類によっては、接着しにくいものもありますので、事前に試験施工して確認された上で本施工を行ってください。
- ⑤ 使用に際しては、各製品の使用方法、注意事項などを必ずお読みいただき、十分にご理解頂いた上でご使用ください。尚、製品の取り扱いに関する詳細が必要な場合は、安全データシート(SDS)をご参照ください。